

2015年11月吉日

キリンビール株式会社
代表取締役社長 布施孝之 様

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク
運営委員長 須田 春海
副運営委員長 中井八千代

先のご返答への御礼と、再質問へのご回答のお願い

先にお送りいたしました私たちの質問書につき、ご多用中にもかかわらず、御社の社長様をはじめとして御社内でご共有いただいた上でのご回答とのこと、ありがとうございます。また、私どもの健康を祈念する御ことばも頂戴いたしまして、感謝申し上げます。

御社のご対応につきましては、他のお客様相談室によく見られるような形式的な対応ではなく、あらためて御礼申し上げます。が、ご回答いただいた内容につきましては、残念ながら、私たちの期待からは遠いものであり、失望せざるを得ませんでした。

既にご承知のことと存じますが、OECDの主要プレーヤーであるEUでは、2014年7月、欧州委員会が「循環経済への転換」という文書を発表し、廃棄物関連指令等の見直しを提案して採択しました。提案の主な内容は次のとおりです。この提案は、いったんは取り下げとなりましたが、2015年末までに、循環経済促進のための野心的な新提案が行われることとなっています。

- 自治体廃棄物のリサイクル/リユース率を2030年までに70%とする。
- 容器包装のリサイクル/リユース率を2030年までに80%とする。
- リサイクル可能なプラスチックや鉄等を2025年までに埋め立てを禁止する。

近年のOECD各国における一般廃棄物リサイクル率（コンポスト含）の平均は30%を超えており、2012年度は1位がドイツの65%、2位が韓国の59%、3位がオーストリアの58%、4位がベルギーの57%となっています（英国43%、米国35%、仏37%）。日本のリサイクル率は、2006年～2013年までずっと20%前後で低迷していますが、いったい何が理由と考えられるでしょうか。

市民団体の荒川クリーンエイドは、毎年、上流の秩父市から河口の東京湾にそそぐ江東区・江戸川区まで100以上の会場で実施されたゴミ拾いの調査を行っています。結果は、6年連続してペットボトルごみがダントツの一位です。2014年の調査でも、実に32,198本もありました。かつての散乱ごみは空缶問題でしたが、スチール缶は錆びますがペットボトルは腐りません。しかも、プラスチックキャップや劣化したペットボトルは深刻な海洋汚染の原因物質になっているのです。

私たち容器包装の3Rを進める全国ネットワークでは、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の責任は生産者にあると考えています。とりわけ「容器包装のリサイクルに必要な回収から再資源化までの費用は、はじめに生産者が負担し、製品価格に内部化して、最終的にその容器包装を廃棄する消費者が負担すべきである」と考えます。先のOECDのリサイクル率で特徴的なこととしては、上位の国々では「廃棄物をリサイクルする責任は生産者にあり、とりわけ容器包装のリサイクルは生産者責任が基本となっている」ことが指摘できます。

他企業に先駆けてCSV（Creating Shared Value）を提唱し、新しい価値を生み出そうとしている御社ではこのような問題についてどのようにお考えでしょうか。お忙しいところたいへん恐縮ですが、お考えをお聞かせくださいますようお願いいたします。ご回答は1ヶ月程度でお願いいたします。なお、ご回答の内容はWEBで公開させていただく場合もございますので、予めご了解ください。